

令和7年度第2回長岡京市防災会議 議事要旨

日時：令和7年11月26（水）午後3時から

場所：長岡京市役所新庁舎（1期）5階 第1委員会室

出席者

会長：中小路市長

委員：松本委員、末永委員、内藤氏（中島委員代理）、中坊委員、山口氏（西浦委員代理）、飯田氏（入澤委員代理）、八島委員、裕委員、田端委員、日高委員、厚地氏（中島委員代理）、西村委員、小倉委員、岡氏（浅田委員代理）、木幡委員、齊藤委員、山田委員、森本氏（沢田委員代理）、出野氏（山崎委員代理）、笠谷氏（奥田委員代理）、馬場委員、稲生委員、寺嶋委員、星野委員、大野委員、渡邊委員、八木委員、畑氏（三好委員代理）

会長あいさつ

本日は、令和7年度第2回の長岡京市防災会議を開催させていただきましたところ、委員の皆様方には御出席をいただき誠にありがとうございます。

また、オンラインで御出席の皆様もよろしくお願いいたします。

今年度を振り返りますと、本市には大きな災害による被害はなかったものの、全国的には山林火災が多発しているほか、熊の出没が多く、防災分野とは若干異なりますが、これもまた自然環境の変化によるものではないかと思われるところでございます。

本市では、去る10月26日に市内全域で防災訓練を実施し、オンラインでのデジタル技術を活用した避難所でのチェックイン訓練を実施したほか、9月には避難所外避難者の把握訓練に取り組んだところでございます。

そうした状況も踏まえ、本日は忌憚のない御意見を頂戴できればと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは本日もどうぞよろしくお願いいたします。

事務局より委員の御紹介

事務局より本会議の公開について説明後に審議

会長代理委員

それでは本会議の公開或いは非公開について、委員の皆様にお諮りをさせていただきます。本会議につきましては指針に基づき、会議及び記録については公開させていただくということでのよろしいでしょうか。

御意見もございませんので、本日の会議につきましては公開とさせていただきます。

本日傍聴者がおられますので御報告させていただきます。

事務局より協議事項「長岡京市地域防災計画の改定について」説明後に審議

委員

京都府地震被害想定の見直しについて、人的被害の発災直後の最大避難者数のところですが、旧は最大と避難所内が同じ数字で、新では最大と避難所内が違いますが、この差は車中泊避難等でしょうか。

事務局

御質問いただきました通り、旧の想定では避難所のみ避難者が想定されておりました。

今回の見直しに伴いまして、避難所以外で避難されるいわゆる在宅避難者でありますとか、車中泊避難者についても想定されておりますため、このような表記となっております。

委員

前回の会議の意見を踏まえまして、保健医療福祉分野の府、市町村、関係機関の連携ということで、文言追加の修正を加えていただきありがとうございます。

11月21日にも、乙訓保健所の方に2市1町の保健担当者、医師会、管内7病院にお集りいただき、医療機関や避難所の状況のシステム入力訓練を実施させていただいたところであります。今後とも、関係機関と市町との連携を進めて参りたいと思います。その意味でも市の防災計画にこのように加えていただいたのは、大変感謝をしているところであります。

修正内容につきまして、保健医療福祉調整支部と表現されていますが、今年度途中でこの支部の部分が地域本部という名称に変わっておりますので、修文をお願いしたいと思います。

委員

被災者支援へのデジタル技術活用ということで、避難所外避難者把握に係る実証実験を9月4日の訓練で実施されたということですが、このような取組の実施を前回会議でお願いしたにも関わらず、今回参加を逃してしまいました。このような訓練は、今後も実施を重ねられますでしょうか。

事務局

今回、避難所外避難者の把握訓練につきまして、こういったソリューションを導入するための実証実験として行わせていただきました。

この実証実験の結果を踏まえて、今後の本格導入に向けた議論を加速させていただいているところございまして、今後の訓練実施頻度等につきましては、いただいた御意見を参考に検討させていただきます。

委員

是非2回3回と重ねていただきまして、デジタルでの避難所外に避難されている方の把握と、それから支援体制もどのように構築するのか、というところも訓練として実施いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員

御発言がございました、LINEを活用したデジタル技術を活用した災害対応ということで、実は私がおります地域の中でも、この土曜日にまさにそういう実証実験を行ったところです。当コミュニティ実施したのは1つの大規模な集合住宅であり、集合住宅内での共助の体制づくりの検討という目的でありました。今回、長岡京市で実施されている被災者の把握や支援の円滑化というのは、数的な把握や支援物資を送る等の実質的なその支援まで想定されているのか、お分かりになる範囲で教えてください。

事務局

今回、このようなソリューションの活用によりまして、まずは市内全体の避難所外避難がどのような状態であるか、という情報を収集させていただきました。

その中で、模擬的に1つの公民館の方で水が不足していると情報を集約し、そこが優先的に対応すべき場所だと位置付けまして、当公民館への水の配送まで行ったところです。

実際の災害時についても、このような活用ができるのではないかと検討してところです。

事務局より報告事項「長岡京市備蓄計画の改定について」説明後に審議

委員

乳児ミルクの新数量は液体ミルクが103リットルで、旧では粉ミルク648リットル分と液体が28.8リットルであり、かなり量が減っています。

実際の災害になりますと、母乳が出ているお母さんも精神的なショックもあって母乳が出なくなるときもあります。

量の判定はどのような基準でされたのか、粉ミルクは全く用意されないのかについて教えてください。

事務局

乳用児ミルクについて、アレルギー対応の液体ミルクは調達が難しいところがございますので、液体ミルクとは別でアレルギー対応の粉ミルクを備蓄する計画となっております。液体ミルクの数量判定ですが、0歳の人口割合といたしましては長岡京市全体の0.7%であり、全避難者数である1万4651人に乳幼児割合を掛けた数量を備蓄するという目標としております。

委員

アレルギー対応粉ミルクについて、各小学校区に1缶は少ない気はしますが、赤ちゃんや乳幼児に対して必要なものは、まずは各御家庭で用意していただくことが大切であり、すべて行政が用意するというのは非常に困難だと思いますので、各御家庭で必要なものを常に日頃から用意していただくということも含めて、広報の御対応もお願いいたします。

委員

備蓄については各小学校区に分けて配置されると思いますが、各地域の被災状況により必要量に差が出てくると思われれます。その場合、どのように融通するのか教えていただけますでしょうか。

事務局

備蓄体制におきましては、備蓄拠点として設けております南部地域防災センター及び各小学校の備蓄倉庫に分散して備蓄をさせていただいております。

小学校の備蓄倉庫につきましては面積等も限りがございますので、避難者数等に対して不足する場合は、備蓄拠点であります南部地域防災センター等から配送する計画としております。

会長代理委員

それでは、本日予定いたしておりました、協議事項、報告事項につきましては以上の通りとさせていただきます。

皆様方、御審議、御意見等いただきましてありがとうございました。